

A Report on Research Visits to Villages in Central China (I) - Hunan Province, October 2018 and October 2019 -

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-05-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: KOIZUMI, Tatsuya, ZHANG, Jingjing, HU, Pingjiang, TANAKA, Hiroshi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00058190

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



華中農村訪問調査（Ⅰ）－2018年10月，2019年10月，湖南省－

古泉達矢^{1*}・張 晶晶²・胡 平江²・田中比呂志³

2019年10月28日受理, Accepted 28 October 2019

A Report on Research Visits to Villages in Central China (I) - Hunan Province, October 2018 and October 2019 -

Tatsuya KOIZUMI^{1*}, Jingjing ZHANG², Pingjiang HU² and Hiroshi TANAKA³

Abstract

This paper is a report on visits to a number of villages in Hunan Province, the People's Republic of China in October 2018 and October 2019. In collaboration with the Institute for China Rural Studies at the Central China Normal University, several interviews of elderly residents living in these villages were conducted. Given that only a small amount of the post-1949 first-hand resources on rural China are freely available to foreigners at least for the time being, oral information regarding the villager's daily lives are of great value to academics trying to sketch a picture of modern Chinese history.

Key Words: central China, family history, Hunan, personal history, village
キーワード: 華中, 湖南, 農村, 家族史, 個人史

I. はじめに

筆者らは華中師範大学中国農村研究院による協力のもと、2018年10月20日から21日にかけて、さらに翌19年10月6日から8日にかけて湖南省Y市P県の農村を訪問し、村民への聞き取り調査を実施した。本稿はその内容をまとめた報告である。以下、本稿では敬称を省略する。

いずれの訪問調査についても、筆者らと共に調査を実施した金沢大学人間社会研究域経済学経営学系の弁納才一が本稿とは別の報告をとりまとめており、近く刊行される予定である¹⁾。このため本稿には、

弁納による論考には含まれていない聞き取りを資料として掲載した。

なお、2018年の調査では本稿の著者である古泉達矢、胡平江、張晶晶のほか、弁納および華中師範大学中国農村研究院の肖盼晴が参加し、湖南方言から中国語（普通話）への通訳は胡が、中国語（普通話）から日本語への通訳は張、肖が担当した。2019年の調査には古泉、胡、弁納に加え、田中比呂志、華中師範大学大学院日本語文学研究科に所属する劉学裕、趙鑫森、馬穎が参加し、湖南方言から中国語（普通話）への通訳は胡が、中国語（普通話）から日本語への通訳は劉、趙、馬が担当した。さらに同年の

¹金沢大学人間社会研究域法学系 〒920-1192 石川県金沢市角間町 (Faculty of Law, Institute of Human and Social Sciences, Kanazawa University, Kakuma-machi, Kanazawa, 920-1192 Japan)

²華中師範大学中国農村研究院 430079 中国湖北省武漢市珞瑜路152号 (Institute for China Rural Studies, Central China Normal University, No. 152, Luoyu Road, Wuhan, Hubei, 430079, People's Republic of China)

³東京学芸大学教職大学院 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 (Graduate School of Teacher Education, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184-8501 Japan)

*連絡著者 (Author for correspondence)

調査では、胡の母親であるYSL、彼の「表妹」²⁾であるPDもまた、湖南方言から中国語（普通話）への通訳に協力してくれた。

なお2019年10月6、7日に行ったYGM、7日に行ったZJSへの聞き取りは、2018年10月に続いて2度目となる³⁾。また2019年10月6、7、8日に聞き取りを行ったHSMは同一人物である。

II. 2018年10月調査

1) 10月20日 15:55-17:30

訪問者：古泉達矢，胡平江，張晶晶

通訳：胡平江，張晶晶

インフォーマント：LSD⁴⁾

場所：湖南省Y市P県W鎮

1-1) 両親について

本人：1938年生まれ，80歳，寅年。W鎮から2 kmほど離れたJ村出身。

父親：LDR，1920年（庚申）生まれ。J村から2.5 kmほどの距離にあるS郷X村出身。そもそも土地はもっておらず，佃農（小作人）としてJ村にやって来た。1989年に死去。

母親：GSC，1922年生まれ。2014年に死去。君山村出身。父母は結婚してJ村へ移住した。

なお，インフォーマントの祖父母はS郷X村に住んでいた。祖父は1958年に，祖母は1961年にそれぞれ死去した。インフォーマントの父母は，結婚後に分家してJ村に移住した。

1-2) 兄弟について

長男：本人

次男：LQD，1946年生まれ，72歳。

長女：幼少時に死去。

次女：（本名は不明，四姑娘と呼ばれている），1948年生まれ，2014年に66歳で死去。

三女：（本名は不明，五姑娘と呼ばれている），1952年生まれ，66歳。

四女：（本名は不明，六姑娘と呼ばれている），1954年生まれ，64歳。

四男：LQJ，1958年生まれ，60歳。

五男：LQG，1964年生まれ，54歳。

1-3) 家族について

妻：PHQ，1947年生まれ，亥年，71歳，W鎮X村出身（張による記録では，LSDの父親が生まれ

た場所とは同じ名前だが別の村）。かつて教師をしていた。PHQによると，インフォーマントと妻それぞれの父母が「媒人」⁵⁾を介して知り合ったことが縁で1967年12月23日（旧暦）に結婚した。結婚前には一度しか会わなかった。

長女：LXZ，1969年5月（旧暦）生まれ，49歳。本鎮の完全小学で教師をしている。

長男：LXZ，1972年4月（旧暦）生まれ，46歳。大学卒業後，岳陽公路⁶⁾で働いている。複数のマンションを所有しており，インフォーマント夫婦はW鎮にあるそのうちの一つに住んでいる。インフォーマントが以前住んでいたJ村の家はすでに売却した。

次女：LXZ，1974年6月（旧暦）生まれ，44歳。W鎮G完全小学で教師をしている。

なおインフォーマントは離婚歴があり，前妻との間に2人の娘を設けていた。そのうちの1人はXGR，1962年10月3日（旧暦）生まれ，56歳。再婚前に他の家族へ「過接」⁷⁾したため，現在のことについて詳しくはわからないが，すでに結婚しており，B中学の厨房で仕事をしている。前妻との間に設けたもう1人の娘は，前妻が連れて行ったので，現在の状況はわからない。現在の妻であるPHQは，結婚するまで夫には結婚歴があり，娘がいることも知らなかった。

1-4) 本人の経歴について

7歳（1945年）から4年間，郷里（現在のJ村）で勉強した。雨が降る日は学校へ通ったが，晴れた日は農作業を行なった。このような状況は村では一般的だった。学費は1学期あたり「大洋」⁸⁾1円だった。11歳（1949年）から20歳までは農業に従事し，J村に存在した，S郷X村に住む不在地主の土地を耕作した。LSDの父親は農業ができる人間だったので，この地主は喜んで彼の家に所有地を耕作させた。この間，16歳の時に最初の結婚をした。その後，26歳まで長沙で兵役に就いた。1962年に共産党へ入党した。

兵役から戻ったあと，最初の妻と離婚した。26歳（1965年）からはW鎮から5 kmほど離れたQ村で，党代表として人々を率いて「水電局」⁹⁾を修理する仕事に従事した。この仕事を終えてからJ村に戻り，1968年から73年にかけてJ人民公社の大隊長を，さらに73年から2005年にかけては32年間，同大隊の書記を務めた。2005年にJ村からW鎮へ移住した。

Ⅲ. 2019年10月調査

1) 10月6日 14:30-16:40

訪問者：古泉達矢，田中比呂志，弁納才一，胡平江

通訳：劉学裕，趙鑫森，馬穎

インフォーマント：YGM

場所：湖南省Y市P県W鎮T村・HPJ宅

質問を始める前に昨年来た旨を伝えると、それを覚えているとのことであった。なお、会話の途中でインフォーマントより7歳年下であり、聞き取りを実施した家屋に住むHSM（HPJの祖父）が聞き取りに参加した。HSMは4歳のときに父を亡くした。インフォーマントとは別の学校へ通ったが、彼とは学校で遊んだとのことである。

1-1) 本人の経歴について

1934年（戊寅）旧暦4月3日生まれ。生まれた場所は、ここから15 kmほど離れたX鎮で、今はW鎮T村となっている（古泉の記録では、現在はW鎮T村に住んでいる）。

1-2) 学歴・学校について

小学校へは9歳の時に行った、2年間学んだ（9歳～10歳）。日本軍が来たばかりのころだった。HPJの曾祖父が経営していた塾で学んだ。この塾の先生は1人だけだった。国語（大字本と小字本）の教科書を用い、2学期制だった。学期ごとに1冊の教科書を使ったので、2年間で合計4冊の教科書を使った。算数（数学）は学ばなかった。算盤は学校では教えなかったもので、隣家に住んでいる算盤をできる人が教えてくれた。1日の授業数は1時間（古泉の記録では、一つの授業は20分ほど）で、授業後は自習した。休憩時間には遊んだ。上学期には8:00から17:00まで学校にいた。ただし、昼には昼食のため帰宅した。

1クラスは少ない時で6、7人、多い時は十数人、平均で8人くらいの規模だった。塾の生徒は全部で数十人いたが、その時々で変動した。全部で8クラス存在したが、教室は2つしかなかった。クラスメートはほとんどがT村の出身者だった。塾には名前が無く、ここから0.5 kmほど離れた沙楼里（音訳 shalóuli）にあった。

1-3) 日本軍の来襲から解放まで

民国33年（1944年）にHPJの曾祖父が日本軍に捕らえられ、学校に通うことができなくなった。この

時に日本軍を見た。彼らは学校にも来た。日本軍がやってきたとき、多くの人はS村に属する馬坡洞に逃げた。私もここで何ヶ月か住んだ。旧暦5月の初めに日本兵がやってきた。2名の軍人が部屋に入ってきて、HPJの曾祖父もう1人が国民党との関係を疑われたために捕らえた。日本軍を日本良子（liángziの音訳）とか日本鬼子（guǐziの音訳）と呼んだ。

1945年に日本軍が去った後、村にやってきたのは国民党だった。9月か10月だ。国民党中央軍第95師団と第60師団だった。共産党がやってきたのは1949年7月21日だった。八路軍や新四軍とは呼ばず、共産党、あるいは毛沢東の軍隊と呼んだ。解放後には学校へ通わなかった。

1-4) 解放前の村の様子について

1斗（10升）田では4石の毛谷ができる（古泉の記録では、往時、本村では400斤の「毛谷」¹⁰⁾が収穫できる田を1斗田として数えた。そのためには1斗田あたり4升の種を撒く必要があった）。1斗田の面積は概ね0.8畝程度だった。鐘家壠に江姓の地主がいた。収穫した「毛谷」250斤のうち「租谷」¹¹⁾で100斤を小作料として地主に渡していた。YGMの家は、豊作時には「租谷」40担（4,000斤）を小作料として地主に支払ったが、それでもなお「租谷」30担を手元に残すことができた。

2) 10月6日 16:40-18:00

訪問者：古泉達矢，田中比呂志，弁納才一，胡平江

通訳：劉学裕，趙鑫森，馬穎

インフォーマント：HSM

場所：湖南省Y市P県W鎮T村・HPJ宅

2-1) 個人の経歴について

1940年（庚辰）旧暦7月11日生まれ、数え年で80歳だ。父は学校の先生をしていたが、日本人に捕まってしまった。後に父は日本軍によって殺害された。父が捕まったことで、かれが1人で教えていた沙楼里（音訳 shalóuli）にあった塾が閉校になったため、当時叔父（姉の夫）が住んでいた新塘沖に移った。姉のHSYは自分と20歳離れていたもので、当時すでにYSRという叔父と結婚していた。この叔父は桂花園の出身で、地主で大金持ちだった。そして同地から1.5 kmほど離れた塘沙屋里の小学校で7歳から2年間、さらにその後、桂花園の小学校で2年間学んだ。この4年間で8冊の教科書を学んだ。これらの学校（古泉

の記録では塘沙屋里の学校)は公費によって建てられた公営小学校だった。塘沙屋里の先生(1人)は解放後に地主と認定された。この先生は昼に授業をやっていたが、夜には批闘にさらされた。桂家園の学校には6人の先生がいた。そのうちの1人は鐘家壠に住んでいたが、数年前に死去した。

2-2) 解放前の村の状況について

解放前の国民党時期に本村では保甲制を敷いていた。むかし、このあたりは四之段と呼ばれ、隣は李家段と呼ばれていた。

3) 10月7日 09:15-11:00

訪問者：古泉達矢、田中比呂志

通訳：劉学裕

インフォーマント：ZJS

場所：湖南省Y市P県W鎮C村・ZJS宅

3-1) 本人について

農曆の1948年6月3日に長明村で生まれた。1955年(7歳)の時から小学校で6年間学んだ。1, 2年生は初級小学, 3, 4年生は中級小学, 5, 6年生は高級小学である。C小学は1958年に紅旗小学と改称となった。このC小学で3年学び、引き続き紅旗小学で1年間学んだ。高級小学はS完全小学校で学んだ。1961年9月1日から半年間、本村から30里¹²⁾(15 km)ほど離れたP五中で学んだ。当時、P県出身者はこの中学校に行くのが普通だった。学校の寮に入ったが、お金がかかった。そのため家から4里(2 km)ほどしか離れていないM新市初中に転校し、ここへ2年半通った。この頃は三年困難期で、母と兄が一日あたり250グラム(半斤)の米を送ってくれた。だが、これでは少なかったため、校長が増やしてくれるように頼んだ結果、送られて来る米の量が375グラムに増えた。

父は地主だったため、自分が2歳の時、土地改革のさなかで投身自殺してしまった。この政治的な原因がもとで進学することができず、16歳の時(1964年)に本村へ戻り、生産隊で「管水」¹³⁾、「治虫」¹⁴⁾、「育秧」¹⁵⁾に従事した。本村はC生産大隊に所属しており、村には13の生産小組があり、自分は第9小組の一員だった。当時の村民は200人ほどで、そのうち50~60人が農業に参加していた。同じ小組に所属する村民はみな同じ建物に住んでいた。自身が住んでいた建物には48の「天井」があった。この「嶺上屋」

という建物は、かつて日本軍や国民党軍が使ったこともあった。日本軍は本村に4回やって来た。岳陽と長沙への交通の便がよかったからだ。

1976年に毛沢東の死去に伴い政治状況が変化し、第9生産小組の会計になった。その後、1980年から1983年には村の会計、1983年から1988年には「信用站」¹⁶⁾の会計を担当した。1986年に共産黨員になった。Z氏の輩行は祖先から数えて64あり、自分の世代の輩行は「大」だ¹⁷⁾。



図1 ZJSの「祖墓」。

Fig. 1 “Zumu” of ZJS.

3-2) 村や近隣の状況について

定期市は(現在は)陽曆4, 14, 24日にW鎮で開催される。普段はM市の新市に買い物に行く。現在、本村の村民は1,300人ほどである。本村が属していたC生産大隊はS人民公社の一部だった。同公社には全部で13の生産大隊があった。

村民の出稼ぎ先は深圳が多い。長沙にも行く。出稼ぎは90年代以降に増加した。最初は広東省へ行っていたが、徐々に長沙へ出るものも現れてきた。出稼ぎに出た家族の子供は、父方の祖父母が面倒を見ることが多い。収入を多く得ている者は、子供も出稼ぎ先に一緒に連れて行く。

1981年以前は集団で農業を行っていたが、一部の者はあまり働かずに食糧をもらっていた。本村では米、サツマイモ、棉花、茶を栽培していた。サツマイモは自家消費していた。綿花(古泉の記録によれば綿花と茶)は1981年まで栽培していた。綿花と茶は国家が買い取っていた。綿花(古泉の記録によれば綿花と茶)の栽培に対して国が化学肥料を無償で支給していた。豚も飼育していた。現在、本村では少量の米しか栽培していない。使用していない田畑は他人に貸与している。

4) 10月7日 13:40-15:40

訪問者：古泉達矢，田中比呂志，弁納才一*
通訳：胡平江，趙鑫森，馬穎，彭丹，劉学裕
インフォーマント：YGM

場所：湖南省Y市P県W鎮T村・HPJ宅

* 弁納，胡，劉はほかの聞き取りを行うため，途中で退席した。

4-1) 村の歴史について

山の畑には5月に4,000株ほどのサツマイモを植えた。これらは立秋の頃に収穫した。米もまた立秋に収穫した。米の収穫後には小麦と菜種，エンドウ豆（大と小あり）を植えた。菜種は春先に，エンドウ豆は立冬のころに収穫した。大豆は旧暦3月に畦と山の畑に植え，旧暦8月に収穫し，豆腐などにして食べた。

三年困難時期は1958～60年だった¹⁸⁾。当時，サツマイモばかり食べていたので，今はあまり好きではない。ワラ，草なども食べた。本村に出た作物泥棒は，本村人だけでなく村外からやってきた者もいた。泥棒は食料なら何でも盗んだ。泥棒は夜間に多く出現したが，彼らを見張る者はいなかった。捕まってしまった泥棒は村人によって殴られた。「看青」という言葉は知らない。自分の家のものは自分で管理しなければならなかったので，村の農作物全般を見張る者はいなかった。

三年困難期には，若者は村外に出て裁縫などの技術を学び，これらの仕事についていた。そのため村に若者はほとんどいなかった。一番大変だったのは58年だ。本村では2，3人の餓死者が出たほか，病死した者もいた。

本村には十数個の組があり，それぞれの組に食堂があった(田中の記録によれば，村には大食堂があった)。人民公社は1960年代に設立された。本村の公社の名前はL公社だった。L公社とS公社，S公社はいずれも現在のW鎮にあった。L公社内には十数の村が所属していた。村には小組がいくつかあった。

4-2) 個人史について

解放後，自分とは下中農の階級に区分された。それまでは地主の土地を借りて小作をしており，自身の土地を持っていなかった。自身は地主から，彼が持っていた20畝ほどの土地すべてを借り受け，これを耕していた。地主は4人兄弟で，彼らには息子もいた。この地主は学校の先生といったよい仕事を求めて村

外に出ていたので，自分の持っていた土地すべてを貸していたのだ。

解放後には1人あたり1.25畝をもらった。自身の家族は4人いたので，1戸で合計5畝の土地を分け与えられた。互助組は1953～54年頃にできたが，これには自身も参加した。互助組への参加・不参加は任意だった。一つの互助組には十数戸が参加した。自身の参加した互助組の場合，家が近い者同士で結成した。

5) 10月7日 16:00-17:10

訪問者：古泉達矢，田中比呂志*

通訳：趙鑫森，馬穎，彭丹

インフォーマント：HSM

場所：湖南省Y市P県W鎮T村・HPJ宅

* 途中から，ほかの聞き取りを終えてやってきた弁納才一，胡平江，劉学裕も参加した。

5-1) 村の歴史について

解放後には階級区分は貧農に分類された。解放前に自身の家は2畝の土地を持っていた。4歳の時に父が亡くなり，2畝の土地が残された。解放後には1人あたり1.25畝の土地が分配されたので，1人しかいなかった自分の家の土地は1.25畝となった。1963～64年に互助組ができた¹⁹⁾。互助組は近隣のもの同士で結成した。自身が参加した互助組は7，8人によって構成されていた。互助組のなかで労働力の交換はなかった。耕作には自分の家で飼育していた牛を使った。この牛を他の家に貸す場合はお金をもらった。お金がない場合は，労働力で返済してもらうこともあった。

初級合作社は1958年に結成された。一緒に仕事をし，一緒に食事をしたので，自分の家のことができないことから，その影響は良くないと思った。食事はすべて食堂で食べた。食堂は合作社ごとにあった²⁰⁾。食堂では大根，青菜，唐辛子，サツマイモなど食べた。米は少なかった。麺類は食べなかった。この食堂は1958年3月から1959年3月まで存在した。

家の鍋や釜はくず鉄として合作社(古泉の記録では国家)へ販売し，こうして得た金は合作社の給料として配られた。各自が持ち寄った鍋・釜の量に拘らず，みんな同額をもらった。集めた鍋や釜の用途は知らない。

三年困難期は1958～60年で，最もひどかったのは1958年だった。労働力が村外に動員され，村の土地

を耕作する人が少なくなった。多くの人々は江西省に行き、荷物を運ぶ仕事に従事した。江西省では湖南省と異なり、政府の政策が甘かったため、個人で仕事をする余地があったからだ。彼らは昼に行こうとすると見つかって捕まり、処罰されるため、夜にこっそり出て行った。湖南人と江西人の関係は「老表」という²¹⁾。

大躍進運動期には「密植」²²⁾を行った。人が扇で苗に風を送った。また通常よりも3倍ほど深く耕した（「深耕」）。自身の弟は「深耕営」の営長だった。深耕したらドジョウがたくさん出てきたので、これらを食べた。

三年困難期には、国共内戦時期で荒廃した村の復興（建物の修復など）に従事していた。猷冲から15里（7.5キロメートル）ほど離れた高段にある村で、製紙工場があった。貧農だったので（古泉の記録では、国の仕事に従事していたことから、事実上の公務員として働いていたため）都市戸籍をもらえたのだが、こっそり村に帰ってきて農村戸籍を保持した。その後、「白水発電站」と「青冲発電站」で働いた。8年間村外で働いていた。

6) 10月8日14:12-16:00

訪問者：古泉達矢，田中比呂志

通訳：趙鑫森，馬穎，彭丹

インフォーマント：HSM

場所：湖南省Y市P県W鎮T村・HPJ宅

6-1) 村の歴史について

四清運動のことは知らない。人民公社ができたのは1958年から59年で、名前はL公社だ。生産大隊がいくつあったかは知らない。自身が所属していた生産大隊の名はT大隊だ。この大隊には12の生産小隊があった。自身は第5隊に属していた。同隊には20戸ほどが所属していた。

公社時代には、夏は朝6時に起きた。食事は食べたり食べなかったりした。食事をしない場合はすぐに農作業に出かけた。食べる場合は食後に出発した。12時半から1時くらいまで仕事をした。

忙しい時期には、午後は食後に休憩をとらずに働いたが、そうでない時は30分くらい休んだ。暗くなるまで働いた。冬は7時に起き、朝食を食べてから出かけた。仕事には小隊のほかの隊員と一緒に出かけた。栽培していたのはサツマイモ、稲、綿花だ。稲

の栽培面積が最も広がった。サツマイモは自家消費用だった。米は国家に1畝あたり「租谷」400斤を上納した。最も多い土地で1畝あたり600斤の収穫があった。土地があまり適していなかったため、綿花の栽培は少なかった。トウモロコシは栽培していない。各自が所有していた土地で収穫した穀物は、国家への納入分を除くと各自のものとなった。小隊のなかで再分配はしなかった。

第5隊の小隊長はPWXという人物だった。小隊長は小隊の隊員による選挙で選んだ。作物を栽培する場所は小隊長が決めた。夜の会議の時に『毛沢東語録』を読んだ。『毛沢東語録』は幹部から購入した。つらいときには、幹部たちは「愚公移山」の話をして隊員を励ました。人民公社の解散後も土地の再分配はなかった²³⁾。

むかし村には1つの土地廟があり、「新陂神」が祀られていた²⁴⁾。昔からこの名前と呼ばれていた。管理人はいない。廟会はない。以前は小さかったが、村民から寄付金を集めて昨年、大きなものに建て直した。現在ではお参りに行く人が自主的に掃除などをしている。

村には定期市がなかった。人民公社の時代には、日用品はW鎮の供銷社で糧票を使って買った。ただし糧票を持っていたのは幹部だけで、一般の農民は金も糧票もなかったもので、容易には物を購入できなかった。そのため、必要な日用品は自分で作ることも多かった。塩については、糧票がなくてもお金があれば供銷社で購入することができた。村には供銷社はなかった。公堂がいろいろなものをくれた。小学校へ通うには学費がかかるため、お金がなければ小学校にも通えなかった。

IV. おわりに

以上、2018年10月および2019年10月にわれわれが湖南省の農村で実施した聞き取り調査の記録を掲載した。中華人民共和国は2019年で建国70周年を迎えたが、同国の村落に関する建国以降の史料で外国人が自由に参照できるものは、現時点では残念ながら多いとは言い難い。こうしたなか、村での具体的な生活をめぐって村民の口から直接語られる情報には、文書史料とは異なる価値があるといえよう。本稿を閉じるにあたり、調査に協力してくれた関係各位に

心から謝意を表したい。

補記:本稿は、科学研究費助成事業(基盤研究(B))2018~22年度「村落档案史料を用いた近現代中国華北農村社会史像の再構成」(研究代表者:田中比呂志,課題番号18H00721)および同(基盤研究(B))2018~22年度「社会主義経済体制下の中国農村における社会環境の特質と変容に関する再検討」(研究代表者:弁納才一,課題番号18H00876)による研究成果の一部である。

文 献

弁納才一, 2019: 資料 華中農村訪問調査報告(2) - 2018年10月, 湖南省の農村. 中国研究論叢, 19, (印刷中).

注

- 1) このうち2018年の記録, および同年の調査へ至るまでの経緯や旅程については, 弁納(2019)を参照.
- 2) 母方の妹の娘をさす.
- 3) 2018年の聞き取りの様子については, 弁納(2019)を参照.
- 4) 基本的にはLSDが回答したが, 家族の状況を聞いている最中にはその妻であるPHQ, 娘のLXZも参加した. 彼女たちはいずれも普通話が流暢だった.
- 5) 仲人のこと.
- 6) おそらく国営企業であろうと思われる.
- 7) 他の家族へ渡す, という意味.
- 8) かつて中国で使用されていた銀貨のひとつ.
- 9) ダムのことを指すと思われる.
- 10) 粃穀がついた脱穀前のコメ, 粃米.
- 11) 脱穀後のコメ.
- 12) 市里の略. 0.5 kmに相当する。以下同じ.
- 13) 水の管理のこと.
- 14) 害虫の駆除のこと.
- 15) 苗の育成のこと.
- 16) 人民公社に置かれた金融機関を「信用社」と呼ぶのに対して, 村に置かれたものは「信用站」と呼ばれた. 現在は農業銀行の一部となっている.
- 17) インタビュー終了後, 彼の一族の「祖墓」へ案内してくれた(図1).
- 18) 一般的に三年困難期は1960~62年とされる.
- 19) 互助組は通常, 合作社に先行して結成されているため, 記憶違いであろう.
- 20) 合作社時代の経験については, 一部人民公社時代のものと勘違いしている可能性がある.
- 21) 湖南省では明代に多くの人々が殺されたことを受け, 以後江西省からやってきた人々の移住が進んだ. それゆえ, これら両省の間には親類関係にある人々が多く, その関係を「老表」と表現するという.
- 22) 苗を通常よりも密に植えること.
- 23) 集団化から人民公社の成立・解散後で村が各戸の土地をどのように扱っていたのかについては, 今回の聞き取り調査では不明瞭な点が多く, 今後の調査における課題である.
- 24) この廟については, 弁納(2019)に写真が掲載されている.